

「 故郷 」

～45分でわかる 魯迅の「故郷」～

本単元で育成する資質・能力

(教科) 思考力 (学校) 表現力, コミュニケーション能力, 主体性

- 1 日時 令和4年10月5日(水) 12:55～13:45
- 2 学年 第3学年1組 (男子14名 女子17名 合計31名)
- 3 場所 本館3F 3年1組教室
- 4 単元について

○ 教材観

本単元は、中学校学習指導要領(平成29年)第3学年「C. 読むこと」の指導事項「イ 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えること。」「エ 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。」「言語文化(3)」「オ 自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解すること。」を受けて指導する。

「故郷」は、二十世紀前半の中国を舞台とした作品である。母国の人々の精神を改革するため文学が有用だと考えた魯迅が執筆した作品である。時代も国も違う本作品は、現代を生きる中学生は理解しにくい部分もあるだろう。しかし、登場人物の心情や人物の描写を丁寧に読み取っていくことにより作品への理解を深め、社会や人間の生き方について自分の意見をもたせることをねらいとして設定した。

○ 生徒観

本学級の生徒に、読書や授業で行う物語の読解についてアンケートを行った。

読書(小説を読む)は好きか。	好き 22名 ・ 嫌い 7名
国語の授業で行う物語の読解は得意か。	得意 4名 ・ 苦手 25名

読書が好きだと回答している生徒は全体の約76%もいたのに対し、読解が得意だと回答した生徒は14%にも満たない。読書が好きだと回答した生徒の理由は、「場面や情景などを自分の頭の中で自由に想像できるのが楽しいから。」「実際できないようなことも人物になりきって想像できるから。」など、読書を通じて自分では経験できないようなことを追体験することにワクワクしているようだ。しかし、授業での読解となると、「自分が読みたい分野でないので興味がもてない。」「面白くない。」という理由から苦手と答えている。イメージを広げる前から拒否反応が出ているように感じられる。

○ 指導観

指導に当たっては、二つの大きな柱を設定している。

一つ目は、脚本化である。読みを深めるためである。「故郷」では、時の流れによって変化した人や人間関係を読み取らせていくことが重要である。脚本化するという明確な目標をもつことにより、台詞のみならず地の文章、行間をじっくりと読むことが期待される。登場人物の人物像、心情、作者の意図をしっかりと読み取らせたい。また、脚本を交流することによって、互いの学びを深めていきたい。

二つ目は、「ブック イントロダクション」、つまり、作品の紹介である。理解を深めるためである。人に解説するためには、作品を完全に理解していなければならない。人に教えると、「理解したつもり」となっていた事柄を、もう一度頭の中で整理して、人に伝わるように説明することができるのでより理解が深まる。

アメリカ国立訓練研究所が発表した学習定着率の高低をあらわした図である「ラーニングピラミッド」によると、学習定着率が一番高い手法は、「他の人に教える」ということである（90%）。そのあと「自ら体験する」（75%）、グループ討論（50%）と続く。今回の授業では、この上位三つのアクティブラーニングを組み込み、効果を狙っていきたい。

ワークショップ型の授業を展開することにより、スムーズに小説の中に入り込んでいかれるようにしていきたい。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本題材においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

資質・能力	知識・スキル			意欲・態度	
	授業の展開の場面で（ミニホワイトボード等を使用して）	表現力・コミュニケーション能力			主体性
レベル1		（話す speak） ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	（聞く） ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	（やりとり） ○話を聞いて質問することができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。
レベル2		（話す tell） ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	（聴く） ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	（やりとり） ○話を聞いて、内容を深めるために質問ができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル3		（話す talk） ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。	（訊く） ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	（やりとり） ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル4		自らが司会をして、少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。			

6 単元目標

第3学年 2 内容〔思考力・判断力・表現力〕より

- 自分の考えを明確にし、相手に伝わるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫する。
【話す イ】
- 表現の仕方を考え、自分が読み取ったことや考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫する。
【書く ウ】
- 文章に表れているものの見方や考え方について考える。
【読む イ】
- 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会について、自分の意見をもつこと。
【読む エ】

7 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。	<ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと」において、場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している。 ・「書くこと」において、目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えている。 ・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会について、自分の意見をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に場の状況に応じて言葉を選び、学習課題に沿って伝えようとしている。 ・積極的に学習の見通しをもって脚本にまとめようとしている。

8 指導計画（全10時間）

教科・領域の本質的な問い

- ・どんなことが文学的な文章を読むときに大切な

過程	時間	学習内容	重点	記録	評価規準	資質・能力 (評価方法)
課題の設定	1	「故郷」のCDを聞き、 全体の内容をつかむ。 (1時間)	態	○	全体の内容をつかみ、作者について調べ、まとめようとしている。	【主体性】(観察・ワークシート)
単元を貫く問い(探究課題の萌芽)						
『ブック イントロダクション』～故郷を知らない人にこの作品を解説するにはどうしたらよいか～						
整理・分析	2	作品の時代背景や社会情勢を踏まえて、心情や考えを読み取る。 (1時間)	思	○	時代背景や社会情勢について理解した上で、登場人物の心情や考えを読み取るようとしている。	【主体性】(観察・ワークシート) 【思考力】 (ワークシート)
	3	「紺碧の空」「金色の丸い月」が象徴するものをとらえる。 (1時間)	思	○	描画ツールで絵を描きながら、「紺碧の空」「金色の丸い月」が象徴するものをとらえようとしている。	【主体性】(観察・クロムブック・ワークシート) 【思考力】 (ワークシート)

まとめ・創造・表現	4	故郷の様子や登場人物の変化をとらえる。 (3時間) 【本時 3/3】	思	○	登場人物の心情を理解し、表現の工夫をしながら脚本を作ろうとしている。	【表現力】【思考力】(ワークシート)
	5	「私」が抱く「希望」や望む社会について考えよう。 (1時間)	思	○	私が考えている「希望」や望む社会の在り方などについて捉えようとしている。	【思考力】 (ワークシート)
	6	「故郷」を読んだことがない人に、この作品を解説しよう。 (3時間)	思	○	話の構成を考え、他者に伝えるように自己の学びを発信するだけでなく、他者の発表を聞き、自分の考えを深めようとしている。	【表現力】【コミュニケーション力】 (観察)

単元を貫く問いの終結

登場人物の思いを知り作品の理解を深めるためには、追体験をすることが有用であることを知る。

9 本時の展開

(1) 本時の目標

○文章に表れているものの見方や考え方について考える。

(2) 本時の評価規準

- ・他者に伝えるように自己の学びを発信するだけでなく、他者の発表を聞き、自分の考えを深めようとしている。(思・判・表)

(3) 準備物

- ・教科書 ワークシート chromebook

(4) 学習の流れ(6時間目/全10時間)

過程	学習活動	指導上の留意事項(○) 予想される生徒の反応(・) 支援を要する生徒への手立て(◆)	評価規準〔観点〕 ★資質・能力【評価方法】
1 課題の把握 [10分]			
導入	前時に作成した脚本を見直し、演技の練習をする。	○各班を回り、アドバイスを与える。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 学習課題 登場人物の思いを追体験するために、心情を考えながら演じよう。 </div>			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ねらい 「私」とルントウの間にある「悲しむべき厚い壁」について考えよう。 </div>			

2 課題の探究 [20分]			
展開 前半	少人数班で、「私」とルントウとの再会シーンの脚本の発表をする。(演じる)	○自分が演じたり,他の班の発表を見たりしながら,「悲しむべき厚い壁」について考えるように伝える。 ・「A班は,『私』がルントウを一目見たときから『壁』を感じているように演じているけど,B班は,『私』はルントウに『旦那様』と言われて初めて『壁』を意識し始めたね。」	
3 課題の解決 [10分]			
展開 後半	各班で次の二点を話し合い,ホワイトボードに記入し,発表する。 ・二人の間に生まれた「悲しむべき厚い壁」とは何か。 ・「私」は,なぜこのような壁ができたと感じたのか。	○壁を感じるようになった理由については,「私」がきっかけ,ルントウがきっかけの二通りの解釈があることを伝える。	[思・判・表] 話し合い 発表
5 課題解決について発表をする。[10分]			
まとめ	<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>予測される生徒の考え</p> <p>A評価 「悲しむべき厚い壁」とは「身分や境遇の違い」で,大人になったルントウが社会的関係において自分が下位であることを意識したことによって生まれた。(再会したときの「私」の反応をルントウが見て,「私」の中に壁を感じたことによって生まれた。)</p> <p>B評価 「心の壁」(「壁」が指すものを捉えることができていない。)</p> </div>		
	○振り返りを書く。		
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>生徒の振り返りの例</p> <p>・各班の演技を見て,「悲しむべき厚い壁」がいつ生まれたのかの解釈の違いがわかって興味深かった。</p> </div>		

小グループの活用

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック (パフォーマンス評価)

尺度 (評点・レベル)	記述語
A (理想的)	演じたり,他の班の発表を見たりして,「悲しむべき厚い壁」とは何か,いつ生まれたのか自分の考えをもつことができる。
B (合格)	「悲しむべき厚い壁」を理解し,いつ生まれたのかは解説を聞くことによって理解できる。
C (乗り越えさせたい実態)	「悲しむべき厚い壁」の内容を理解できる。